

事業名	① 地域おこし協力隊推進事業(企画課分)	担当部署	総務部 企画課 つる創生推進室
-----	----------------------	------	-----------------

市の取組への評価・課題	具体的な対応策・提案	コーディネーターによる意見のまとめ
<p>【評価○】 ・定住に向けた起業セミナーは、地域おこしの活動が終了した後も職探しのきっかけとなるので良いと思われる。</p>	<p>・「人」や「職」を繋ぐコーディネーターとして「まちづくり」を一つの職に成長させることで企画課の隊員であっても手に職を持つと思われる。また、コワーキングスペースなどを整備し、大学生と隊員をマッチングさせ、新たな事業を生み出すための機会を設けることも有効と考える。</p> <p>・募集時点でミスマッチが起きないように工夫として、面接前日にお試し居住に宿泊し、都留市を見ることを条件にするなど、都留市や一緒に働く人のコミュニケーションを図れる機会を設けてはどうか。また、待ちの姿勢ではなく、都留市を知っている市出身者や都留文大OBをスカウト、就職活動の選択肢の一つとして、協力隊の存在を知ってもらい、新卒で協力隊になった人には新人研修やOJTを充実させてはどうか。</p>	<p>・評価基準は隊員が定住することも大切だが、活動期間中に何を残したかが大切。</p> <p>・定着率が課題であれば、定着率の目標値を設定したらどうか。</p> <p>・定住に向けて家族に対するサポートが大切。</p> <p>・隊員の人件費は国の交付金を活用するのであれば、人を増やせば定着率も上がるのでは。</p> <p>・都留市を好きでいてくれれば、離れて行っても関係人口につながれば、都留市の宣伝をしてくれるのではないか。</p>
<p>【評価△】 ・隊員の定住という意味では、県平均を下回るが、定住しなかった隊員が何をしたのかも大切なので、一概には評価できない。</p>	<p>・事業の経験ある人の指導や県の隊員と県内の市町村の隊員のサポート体制を構築したらどうか。</p> <p>・弾力的勤務形態としてはどうか(例えば、副業や商店で働いたり、週3日で残りの時間を起業準備にあてるなど)。</p> <p>・転出してしまった隊員に対しても“ふるさと通信”みたいな都留市を知らせる手紙・メールを出し、関係を構築し続ける。また、定住しなかった、定住した気持ち・理由を調査する。</p> <p>・隊員の家族も気にかけて、「まちマーケット」のさらなる運用や各事業の紹介等、私生活を充実させるための情報提供をしてはどうか。</p>	<p>・実業の仕事でないと定着しないのでは。</p> <p>・任期中に隊員をやめてしまった理由を追跡調査などし、明確にしたほうが良いのでは。</p>
<p>【課題】 ・地域おこし協力隊の活動後の定住率の低さ。</p> <p>・企画課の地域おこし協力隊は、具体的な事業での業務ではないため、任期終了後は新たに事業を起こす必要がある。</p> <p>・1、2年で帰任している隊員もいるのは、当初の募集要項と実際の活動とのミスマッチが起きているのではないか。</p> <p>・どんな人材を求めて、何をどうしてほしいか具体的なゴールを決めたほうが良い。</p>		